

福島を教訓を活かし、安価で安定したエネルギー源の確保に国をあげて取り組みます。

脱原発の前にやるべきことがある!

シェールガス(注)獲得などエネルギー危機を救えるのは**天然ガス**。



脱原発のための克服すべき課題

- 使用済核燃料の最終処分方法と処分場所の **国民的合意**
- 再生可能エネルギーのコストダウンと安定化させるための **蓄電池技術の飛躍的向上**
- 安価で安定的に調達できる天然ガス等の **化石燃料の確保**
- 休止、廃炉になる原子炉の **未来永劫の絶対的安全対策の確立**



枝野大臣に原発再稼働の必要性を訴える

向山好一のエネルギー政策の骨子

- 当面の電力需給を考慮し、ストレステストを経た **40年未満の原発は再稼働させる**。
- 自然エネルギー普及のポイントとなる **蓄電池の技術開発に国費を重点投資する**。
- 日本の国益に叶う基本政策は **多様なエネルギーの「ベストミックス」**。
- 大規模発電所による系統集中型社会から、 **自家発電コジェネを活用した個別分散型社会へ転換する**。
- 安価な天然ガス獲得のため **シェールガスの自己権益獲得に国をあげて取り組む**。

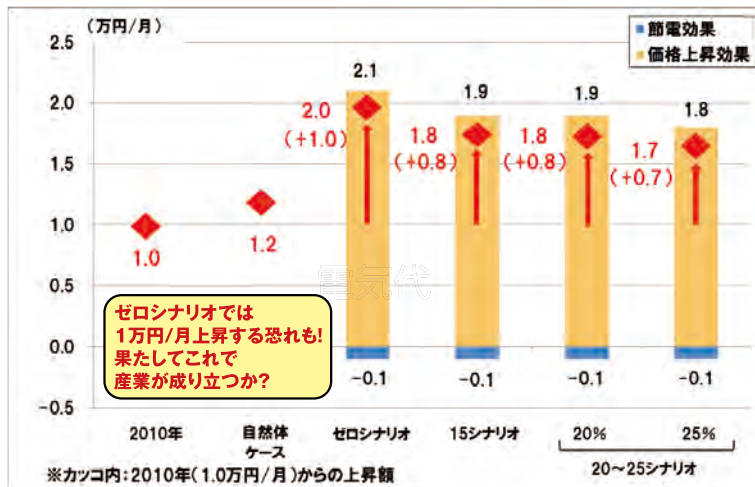
原発のゴミはどうするの?

現在、全国の原子力発電所に貯蔵されている「使用済核燃料」(原発のゴミ)は、合計14,290トンあり、最終処分は決まっています。原発技術を放棄することは、集められたゴミステーションのゴミをそのまま放置することと等しくなります。原発を止めても、永久に「使用済核燃料」の恐怖はなくなるばかりか、管理がより困難になる恐れがあるのではないのでしょうか。



放射能汚染土壌の処分場を視察

原発ゼロシナリオにおける電力料金上昇



※ 上記は、地球環境産業技術研究機構(RITE)による分析(経済産業省資料より抜粋)
 ※ 経済産業省では、上記の含め、国立環境研究所など4機関での分析を実施

Point

「シェールガス革命」とは?

これまで利用してきた天然ガスは地下の一部に溜まったガス層から吸い上げていましたが、それ以外に頁岩(けつがん)という固い岩盤のすきまに閉じ込められた天然ガスのことをシェールガスといいます。北米、ヨーロッパ、中国、インドとなど世界に広く分布し、以前から存在自体は知られ埋蔵量は90兆m³と在来型天然ガスとほぼ同程度であると予測されていますが、その収集技術(濡れ雑巾を絞って水を回収するイメージ)がなく未利用でした。しかし、最近の技術革新で掘削が可能となり、アメリカはその産出で世界最大の輸入国から輸出国へと変わり世界のエネルギー勢力図を塗り替つつあるのが「シェールガス革命」です。

このアメリカ産シェールガスの価格は2~3ドル/MMBTUと現在日本が輸入しているLNG価格の約1/7と安価であり、この権益獲得は環境負荷の低い天然ガス活用の観点からも非常に重要な視点です。ただ、アメリカは輸出を経済連携締結国に限定しており、日本のTPP参加はエネルギー安保の観点からも必要と考えています。



アメリカではこんな所にもガス田が